



# 都工 PTA新聞

平成24年2月29日  
 発行 No.54  
 都工PTA 広報委員会  
 生徒数 709名  
 男子 618名  
 女子 91名



野球部 主将  
 坂本 祥貴 (2年)

最終的な目標は、甲子園出場、そして甲子園で"勝つ"こと。その為にはこの冬が勝負。全員が同じ目標を持つことと、個人の努力が必要だと思う。このメンバーなら本当に強いチームが作れると信じている。来年こそ、初の甲子園出場をこのメンバーで決めたい。



野球部 監督  
 松田 虎鯉夫

野球はボールゲームでありながらボールそのものに得点する力はありません。誠実、勇気など強い心を抱いた人間が四つのベースを順番に踏み「人が得点」になるスポーツです。心が常に体よりも先行し、瞬時の決断力が勝敗を左右します。また、キャッチボールにも心があります。相手の捕りやすい所に投げようとする心と送球が悪送球にならないように止めてあげようとする心です。「野球というゲームを考え出したのは人間じゃなくて人間の中にいる神様のような気がする」と伊集院静(受け月空晴れて)は表現しています。そのラストに母と息子のキャッチボールのシーンがありますが運動部の息子を持たれる母親におすすです。最後に、選手が納得のいく練習をたくさんこなす事で生まれる自信と、向上心を集め、可能性を見出すことのできるチームで甲子園、全国制覇を目指します。



都城工業高校野球部  
 父母の会 会長  
 坂本 賢志

八月よりスタートした新チームに伴い後援会用Tシャツの背中に「都工魂」の文字を入れました。私自身都工卒業生であり当時はサッカー部に所属していましたが、よく耳にする言葉であり他の部でも愛用してました。都工生の都工生にしかない特別な精神(気合い、粘り、団結)であり合言葉のよう叫び合っていました。野球部がまだ一度も足を踏み入れてない甲子園球場、この都工魂をもって夢を実現できればと思います。

# PTA活動報告

10月7日・8日 県高P連秋季研究大会

## 宮崎県高等学校PTA連合会秋季研究大会 県南大会に参加して

PTA副会長 大嶋 和明



平成23年10月7日・8日の二日間に亘り日南市に於いて同大会が行われました。大会初日の最終プログラムで同地区内でスーパーやレストラン経営を展開されている戸村精肉本店会長 戸村吉守氏の講演が「企業は人なり」と題してありました。講演の内容は氏のこれまでの生い立ちから始まり企業家としての心構えまでに及びました。その中で、「生産者」「消費者」「従業員」の3者が喜びを感じ幸せを実感しなければいけないと述べておられました。「消費者」「従業員」の幸せを、という話はよく聞きますが、「生産者」が入っているのを聞いたのは、多くありません。この事からだけでも、氏の懐の深さが伝わって来るようでした。又、これまでも地元の貢献のために自身が幼い頃、本が買えなかった思い出から「戸村文庫」を創設され子供の育成のため地元、日南と若い頃修行時代を過ごされた奈良県橿原市へ毎年多額の寄付を行ない地域社会の発展に貢献されておられます。正に「企業は人なり」だと思います。企業家として人としても成功された要因を垣間見た様な講演でした。

### 大会2日目 第2分科会 「生徒指導とPTA」(講師 河野 誠氏) 研究テーマ「ネットに翻弄される若者たち～情報化社会の負の側面をいかに乗り越えるか～」

近年情報化社会となりあらゆる情報が、それこそ洪水の様に私たちの周りに溢れており情報の取捨選択が容易に行える分便利ではありますが、そこには様々な危険性が潜んでいると改めて思い知らされた講義内容でした。

現代の子供達は携帯電話やパソコン等が当たり前のように身近にありそれ故、危険性に対しあまりにも無自覚で生半可な知識しか持ち合わせていない様に見えるとの事でした。

子供達をそんなネット犯罪から守るには大人、親、教師が防波堤としての役目を果さなければならないと強く述べられました。

我々、保護者は携帯電話等を与える際、その危険性について十分に教えていかなければならないと認識しました。又、既に手にしている子供達についても家族間での話し合いが大変重要である事も改めて認識しました。

最後に対策手段の一つとして携帯フィルタリングが有効であると教えられ、使用中も「まさか」「ひょっとしたら」の危機感をもつ事が大事であると教えられました。

気軽に使っている携帯電話やパソコンですが実に様々な落とし穴があると思い知らされた講義でしたが子供達だけでなく、我々大人もしっかりと認識する必要があると考えさせられました。

10月29日 都北地区

## 平成23年度県高P連 都北地区秋季研修会・母親研修会に参加して

中西 礼子

「親子の絆の希薄。子どもにどう向き合うか」開会式冒頭での言葉です。その言葉は山内文代氏の講話「生きていてよかった」で更に考えさせられるのです。子供を産んで育てられる幸せ。そう感じる山内さんは18歳で右腕を肩から切断。『神様が1分間右手を与えてくれたら30歳過ぎた息子を抱きしめたい。』そんな願いを持つ山内さんは食べられる、見える、話せる、歩ける全てに感謝されていました。またご自身の経験から差別がなくなれば地域で共に生きていける。そんな社会を目指しボランティア活動を積極的にこなされる山内さんの生き方、そして母親研修会で聞いたハーモニー。あの時間、私は確かに"あるものに感謝"し、「心に栄養」を貰いました。

## PTAバザー

PTAバザー収益金 **95,350円**



毎年、バザーに協力頂きありがとうございます。  
今年の収益金は、交通安全用具と女子生徒防犯ブザーなどに活用させていただきます。





てるてる がチヨー効いたね!

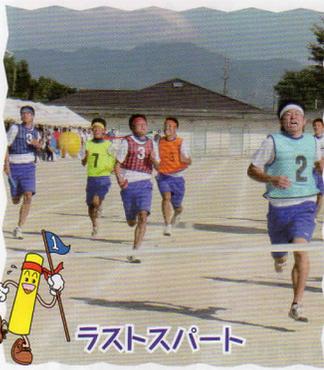


気力

第49回 体育大会  
平成23年10月1日(土)

総合優勝

インテリア科(赤団)



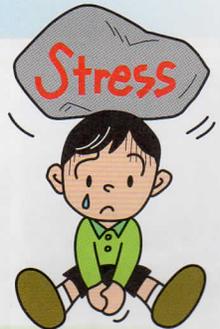
子供達の頑張りに感動です

# 特集 親学 ～親としての子どもへの接し方～

## ■初めに



近年、ニュースや新聞等で、子どもや私たちと同じ年代の自殺という悲しく痛ましい記事が多い。子ども達の自殺は、学校でのいじめや両親との口論等が主な要因であり、私たちの年代では、経済的理由や病気、家族不和等々が要因の上位をしめるらしい。そこで、「命の大切さ」という観点から「親学」と題し、特集を組んでみました。「親としての子どもへの接し方」や私たちの「健やかな心」を得るためにも、参考にしてください。



## ■親として子どもへの接し方

### 1 「子どもの経験はあるけど、親の経験は初めて！」

あるお父さんがこんな意見を述べられました。「子ども時代の経験から、子どもの考えや行動は手に取るように解るので注意やアドバイスには経験が生きた、適した事や内容を伝え言えるが、親の経験は初めて!いろいろな部分に間違いや相違があるだろう。そんな事を意識しながら、子ども時代の先輩として言葉をかけている。



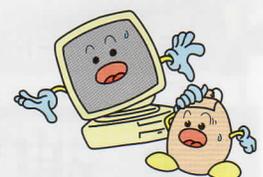
### 2 「子どもの自我を尊重する」

「ダメ!」「○○しなさい!」とか頭ごなしに命令したり、叱りつけたりしない。例えば、食事の準備に「お皿出して!!」と言うのではなく、「この料理にはどんな皿が合うのかな?」など自主的に行動できるような導き方が必要となる。



### 3 「共に考える」

毎日、多忙な親も子どもと密なコンタクトをとり、向き合う努力が大切。例えば子どもが「これ何?」と尋ねたら、「ちょっと待って!百科事典と一緒に調べよう」とお互いに問題解決をしようとする姿勢や同じ方向に向かっていく事、これこそが教育ではないか!



### 4 「家族関係の変化」

核家族から少子化の進展で、いわゆる一人っ子の割合が増加し、兄弟姉妹、親戚、友人同士で遊び、切磋琢磨したり、祖父母との触れ合う機会が減少している。また、メディア技術の発達により、テレビによる食卓での風景が変化し、家族間の会話が少なくなっている。パソコンや携帯電話、インターネットの長時間利用により、家族間のお互いの関心まで薄れている状況である。



### 5 「親が失敗することの大切さを教えない」

守り過ぎず、子どもに失敗することを教えることも大切。失敗がない子どもは、その挫折感から、どうやって乗り越えればいいのかかわからなく、それが立ち直れないくらいの痛手となる子どもが多くなっている。失敗や悲しみ、苦しみが多し程、強く優しくなれるのではないか?



## 子どもたちが体験から実感する『生きる喜び』

	中学生	高校生
自己肯定感	<p><b>「我ながらなかなかヤルじゃん！」</b></p> <p>クラス活動や部活動の中で自分の存在感を確かめ自分の良さを発見する体験。</p>	<p><b>「自分も捨てたもんじゃないな！」</b> <b>「今の自分でいいんだ！」</b></p> <p>学校行事や部活動・サークルの中で、自分の存在を認め直す体験。</p>
自己有用感	<p><b>「私を必要としてくれる人がいる！」</b></p> <p>手伝いや学校生活の委員会・係・ボランティアなどの活動を通して体験。</p>	<p><b>「誰かのために、役に立ちたい！」</b></p> <p>これまでの体験や経験を活かして、より具体的な活動や自主的な活動を通して体験。</p>
成就感・達成感	<p><b>「やればできるんだ！」</b></p> <p>学習や部活動、習い事や友人との遊びの中で目標への到達から得る。</p>	<p><b>「最後までやり遂げれた！」</b> <b>「とうとうやった！」</b></p> <p>生活の中で、目標としていること、些細なこと等々への自分の目標をクリア、達成から得る。</p>
連帯感	<p><b>「みんなと心がひとつになった！」</b></p> <p>体育祭・文化祭・修学旅行・友だちとのふれあい・部活動・地域行事への参加で協力することによって体験。</p>	<p><b>「自分はひとりじゃなかった！」</b></p> <p>各行事やイベント、大会、レクリエーション等への参加で自分の役割を見つけ、積極的に活動することで得られる。</p>
自然や生命への畏敬の念	<p><b>「自然って素晴らしい！」</b> <b>「命って神秘的！」</b></p> <p>ペット飼育、植物栽培、台風や雷などの自然現象、兄弟の誕生、死と向き合う、人との出会いなどで体験する。</p>	<p><b>「生かされている自分を感じて」</b></p> <p>ペット飼育、植物栽培、農業体験、野外活動、兄弟の誕生、近親の死、出会いなどで体験する。</p>
人を愛する 愛される喜び	<p><b>「自分を支えてくれる人がいる」</b> <b>「好きな人がいる」</b></p> <p>家族とのふれあい・友達との支え合い、恋愛体験、ボランティア活動などで体験する。</p>	<p><b>「親ってこんなに自分のことを思ってくれてるんだ」</b> <b>「あの人のことが好きだ！」</b></p> <p>家族とのふれあい・友達との支え合い、恋愛体験、ボランティア活動などで体験する。</p>

「命の大切さ」を実感させる教育への提言（「命の大切さ」を実感させる教育プログラム委員会）より引用

### ■私たちの「健やか」を願って

子どもの健全な成長は私たち「親」の健やかさも大切なひとつ。こころ健やかに明るく、笑顔の生活にしましょう。そのためにも気を付けて欲しいこと

#### 「うつな気持ちから抜けだそう」

- ◎一人で考え込まずに誰かに相談してみよう！何気ない会話も大切
- ◎誰かと一緒に悩みの原因をひとつ、ひとつ整理し、具体的な解決策を考えよう
- ◎自分ひとりで決めつけない。ひとりで出した結論にしがみつからない。
- ◎運動や音楽鑑賞等々、自分の好きなこと好きな時間を楽しみ、気分転換しよう
- ◎自殺の割合は女性よりも男性の方が高い。女性は私的な友達がいるのに比べ、男性は相談できずに会話が成立しないことが多い









部活動探訪

●弓道部本年度の成績●

- ・県高校総合体育大会……………準優勝
- ・全九州総合体育大会(沖縄)……準優勝
- ・1年生大会……………個人優勝
- ・新人大会……………近的 第3位
- ……………遠的 第2位
- ・九州新人大会出場(佐世保)
- ・全国選抜大会(岐阜) 個人戦出場(坂口1年)



九州高等学校弓道競技大会(沖縄)準優勝の選手達



九州制覇を目指し頑張る新チーム

道場訓  
正しい射は必ず中たる  
正しければ必ず中たる  
中たらなければ  
正しい射は必ず中たる  
意志が弱いかの  
正しくないかの  
どらなにかの  
どらなにかの



弓道部 顧問 金井 吉光 先生

新チームの目標は?

- 選手権で優勝したい
- 可能性はある
- 来年度の総体優勝
- 県で一番になりたい
- 大会での精神面を鍛えるためにも、アウェーな環境での場慣れをさせたい。



弓道部 主将 2年 村永 昌太

去年は地区大会でも準優勝。小さな大会でも優勝して今年の総体では優勝したい。



弓道部 副主将 1年 坂口 雅章

3年生が居る時には、先輩方に頼っていたので、副主将としてしっかり頑張ってチームをまとめていきたい。

★バレーボール部  
★サッカー部  
新人戦  
優勝  
おめでとうございます!!

★放送部  
九州高等学校文化連盟  
第33回九州放送コンテスト  
佐賀大会  
テレビ番組部門  
奨励賞  
おめでとうございます!!

★吹奏楽部  
第13回九州スチューデント  
ジャズフェスティバル  
グッドスウィング賞  
おめでとうございます!!

\*都城工業高校携帯サイト\*

一週間の行事や、配布プリントなどの情報を掲載しています。携帯電話でQRコードを読み取るか、URLを入力してアクセスします。

check!!

URL↓  
<http://www.miyazaki-c.ed.jp/miyakonojo-th/keitaiindex.html>

～広報委員長～  
別 府 満 中 山 治



～後期広報委員～  
宇都宮 恵美子  
森 島 有希子  
内 田 里 美子  
荒 武 栄 子  
荒 田 美 幸  
山 元 幸 美  
徳 留 直 美  
荒 木 奈 緒  
二 宮 竜 一

編集後記

編集部長として、三年間PTA新聞の制作をして参りました。その都度顧問・広報委員に恵まれ、毎回新聞発行が出来た事を感謝します。

今回も新たな気持ちとなり、部員と意見を出し合い、会議を重ね、何とか発行にこぎ着く事が出来ました。

内容的に足らざるところもあるかと思いますが、各御家庭で親子の会話を楽しみながら、ご覧下さい。